

岐阜県中山間農業研究所ニュース

2017年度 第1号

春の定期異動により新たに多くの職員が仲間に加わりました。今年度も現場に役立つ技術開発を目指して、職員一同これまで以上に頑張ります。

さて、今年度最初の研究所ニュース第1号では、当研究所で前年度に開発し、すぐに役立つ技術として現場へ普及に移した9つの研究結果の中から、特に大きな成果の得られたものについてご紹介します。



©岐阜県

本 所 〒509-4244 岐阜県飛騨市古川町是重2-6-56
TEL: 0577-73-2029 FAX: 0577-73-2751

中津川支所 〒509-9131 岐阜県中津川市千旦林鍛冶屋平643-1
TEL: 0573-68-2036 FAX: 0573-68-3116
<http://www.k-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

● クリのクリシギゾウムシ被害を防ぐ「立木防除」と「収穫・保管」の改善法

クリ害虫「クリシギゾウムシ」の防除に使われてきた臭化メチル剤の全廃等に伴い、収穫後の果実をまとめてくん蒸処理（殺卵・殺虫）することが難しくなり、当研究所ではその対策技術の開発に取り組みました。「立木防除」では発生予察と予測計算により中晩生品種を中心に適期防除し、さらに低樹高栽培により薬液が付着しやすくすることが重要です。また「収穫・保管」段階では、毎日収穫に努めることと、0～3℃の低温で保管する必要があるとの一連の技術を開発しました。

【支所果樹担当 磯村 秀昭】

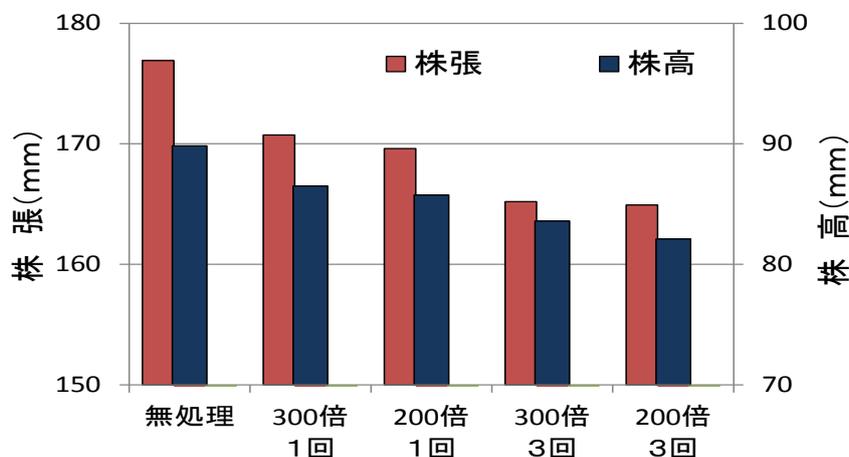


● シクラメンの矮化剤処理による省力・高品質栽培技術

平成28年に新たにシクラメンで登録拡大された矮化剤（成分：ダミノジット、商品名：キクエモン）の効果と薬害を明らかにしました。本剤をシクラメンの生育期（6～11月）に、希釈倍率200～300倍で株全体に茎葉散布（1～3回）することで矮化効果が確認できました（下右図）。一方で、200倍処理では散布条件により軽微な薬害が生じる可能性があります。【支所花き担当 浅野 正】



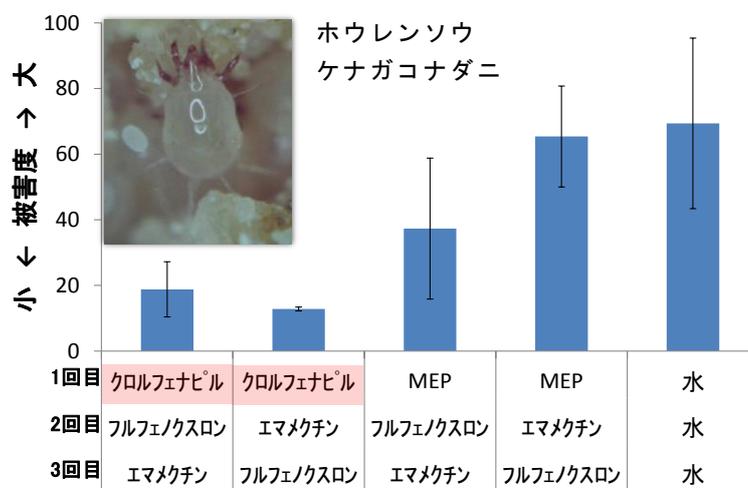
キクエモン200倍を1回処理したシクラメン



● 難防除害虫ハウレンソウケナガコナダニの防除体系

雨よけハウレンソウ栽培では、春・秋にハウレンソウケナガコナダニの被害が問題となります。使用薬剤について検討したところ、クロルフェナピル水和剤（商品名：コテツフロアブル）を防除に組み合わせることで被害が低減されました。ただし、展開葉に薬害を生じる場合があるため、高温時の使用には注意が必要です。

【本所野菜担当 中西 文信】



コナダニ被害度 (体系防除試験)

● 人事異動（平成29年4月1日付）

転入者	新所属	旧所属	転出者	転出先
浅野雄二	本所専門研究員	飛騨農林事務所	袖垣一也	水産研究所下呂支所
石橋裕也	本所研究員	飛騨農林事務所	二村章雄	飛騨農林事務所
可児友哉	本所研究員	中津川支所	佐藤秀人	西濃県事務所
服部哲也	中津川支所研究員	飛騨農林事務所	可児友哉	本所
進藤晴紀	中津川支所主査	下呂温泉病院	坂田 肇	下呂温泉病院
田口健太	本所主事	新任		